ヒジキ漁場の造成

水産試験場

[研究のねらい]

健康食ブームや地産地消の意識向上等により価格が好調なヒジキは、潮間帯に繁茂するため漁獲が比較的容易なこともあり、高齢化の進む本県漁業において、非常に重要な漁獲対象種となっています。しかし近年、藻場が減少し漁業に支障をきたす「磯焼け」が大きな問題となっており、ヒジキ群落も多くの地先で衰退傾向にあります。そこで水産試験場では、消失したヒジキ漁場を再生させるため、地元漁業者に対して磯掃除や母藻設置等によるヒジキ漁場造成を指導しています。

[研究の成果]

ここでは、平成22年度に実施したみなべ町堺地先の事例を報告します。本地先では地元漁業者の意志に基づいた計画に従い、平成22年5月28日に総勢52名が「ボークイ」と呼ばれる沖磯を漁場造成しました（図１）。その結果、翌年4月には造成海域全てで平均全長58mmの幼芽が観察され、最も多い場所では1,500個体／㎡の群落を確認することができました。（図２～３）。

[今後の発展方向]

本事例は試験レベルで検証してきた技術を現場適用し、比較的大規模な造成をなしとげた成功例であります。今後は隣接地へ群落を拡大させるとともに、他地先でも同様の成果があがるように取り組んでいきます。

図1　漁場造成の作業風景
(H22.5.28)

図2　形成されたヒジキ群落
(H23.4.20)

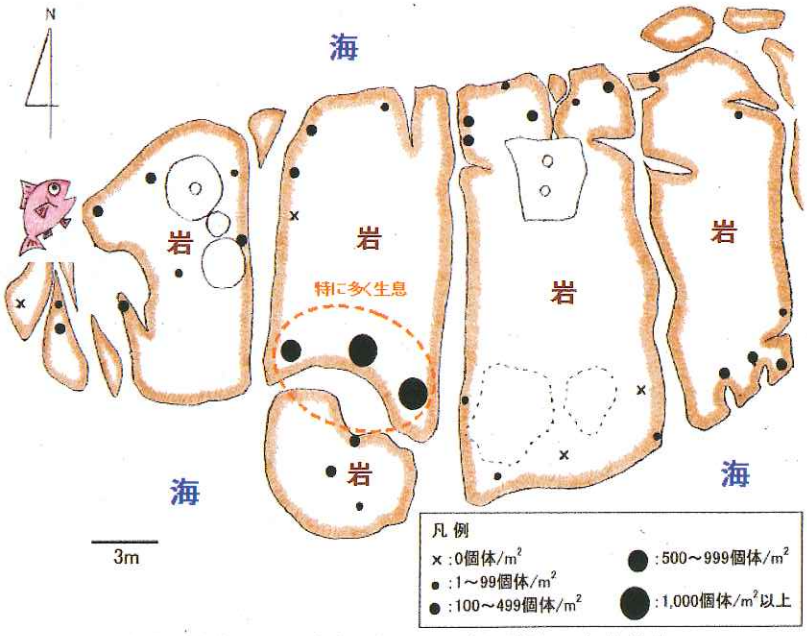

図3「ボークイ」地先におけるヒジキ群落の密度分布

（問い合わせ先：0735-62-0940）